

専門科目 日本語教育・日本語学（2枚のうち 1枚目）

I. 日本語教育学

1. 次のA, Bの2つの設問から1つを選択して答えてください。

A. 外国語としての日本語教育（JFL: Japanese as a Foreign Language）と第2言語としての日本語教育（JSL: Japanese as a Second Language）の異なりについて具体例を挙げながら論じてください。

B. 日本語教育における読解の授業について、「トップダウン処理」と「ボトムアップ処理」という観点を含めながら、多角的に論じてください。

2. 次の6つの事項から4つを選択して、簡潔に説明してください。

- (1) 形成的評価
- (2) 地域の日本語教室の役割
- (3) 公文書書き換えと「やさしい日本語」
- (4) 学習ビリーフ
- (5) 明示的フィードバックと暗示的フィードバック
- (6) 日本語教育文法

専門科目 日本語教育学・日本語学 (2枚のうち 2枚目)

II. 日本語学

1. 次のA, Bの2つの設問から1つを選択して答えてください。

- A. 英語などの強弱アクセントに対して、日本語や中国語は高低アクセントである。しかし、同じ高低アクセントでも、日本語や朝鮮語と、中国をはじめとする東アジア諸言語のアクセントでは性質が異なる。声調アクセントとも呼ばれる中国語のアクセントと日本語・朝鮮語のアクセントの違いについて説明し、合わせて、日本語・朝鮮語ではアクセントの単純化が最終的に無アクセント（無型アクセント）を生じさせたのに対して、中国語などの無アクセント化（アクセントルールがなくなること）は考えられないことの理由について考えを述べなさい。
- B. 日本語の現代敬語の特徴について、「尊敬語」「謙譲語（謙譲語A・B）」「丁寧語」「美化語」「上下関係」「親疎関係」などの語句を用いながら概略を説明するとともに、それらとBrown & Levinsonのポライトネス理論の違いについて説明しなさい。

2. 次の6つの事項から4つを選択して、簡潔に説明してください。

- (1) 母音の無声化
- (2) 新方言とネオ方言
- (3) 単純語と合成語
- (4) グロットグラム調査
- (5) サピア・ウォーフの仮説
- (6) モダリティ

「1」以下に添付する文章は、諏訪春雄「幽霊・妖怪の凶像学」(小松和彦編『日本妖怪学大全』二〇〇三年 小学館)の一節である。(4枚目まで続く。)諏訪の引用する柳田説及び諏訪説を要約の上、日本文化を分析するに於いて幽霊と妖怪を区別すべきか否か、具体的事例を挙げて、自分の考えを述べなさい。

幽霊・妖怪の凶像学

諏訪春雄

一 お化けと幽霊と妖怪

日本人は、お化けということばで、幽霊と妖怪をふくめてしまうことがある。また一方で、なんとなく幽霊と妖怪をわけてかんがえることもある。

学者のなかでも、民俗学者の柳田国男は幽霊と妖怪をわけてかんがえていた。柳田は、昭和十一年(一九三六)に発表した「妖怪談義」という論文で、妖怪(柳田は「おばけ」とよんでいた)と幽霊をつぎのようにわけていた。

第一に、妖怪は出現する場所がきまっているのにたいし、幽霊はどこへでもあらわれる。

第二に、妖怪は相手をえらばず、だれにでもあらわれるのにたいし、幽霊のあらわれる相手はきまっていた。

第三に、妖怪の出現する時刻は宵と暁の薄明りの時であるのにたいし、幽霊は丑満つ刻といわれる夜中に出現した。

注意…2枚目以降に続く

国際学専攻「外国人留学生特別選抜」

専門科目 日本文化学

（5枚のうち 2枚目）

これをまとめると、妖怪は宵と暁に場所に、幽霊は真夜中に人にあらわれるということになる。

この柳田の定義はわかりやすいものであるが、しかし、あきらかにあやまっている。たとえば江戸時代、日本の各地に数多くつたえられている、代表的な幽霊の話に「皿屋敷」がある。ある家に奉公していたお菊という女が、あやまって十枚ある家宝の皿を一枚わって湯殿（または井戸）で打首にされてしまった。そのうち、お菊の亡霊が毎晩出現して、皿をかぞえ、九枚めになるとなきだすという話である。そのうち、その屋敷の持ち主は何代もかわるが、お菊の幽霊はその家をさらさず、湯殿（井戸）にあらわれたという。あきらかに人ではなく、場所に出る幽霊である。

この逆に、人をおいかけける妖怪の話もたくさんある。「道成寺伝説」という名前で知られている、紀州和歌山の道成寺につたわる安珍清姫の伝説に登場する清姫は、自分からにげる恋人の旅僧をおいかけて、日高川を大蛇になつておよいでわたる。あきらかに妖怪である。彼女は、安珍のにげこんだ道成寺境内の鐘を何重にもとりまいて、鐘ごと安珍をとかしてしまふ。あきらかに人をおいかけける妖怪である。

幽霊と妖怪のあいだにはかなり明確な区別があるが、学者のなかには、幽霊と妖怪を一つにかんがえて両者を区別しない人も多い。

柳田国男の弟子で、ともに日本民俗学の形成に大きな功績のあった折口信夫は、先生の柳田とはちがって幽霊と妖怪を区別していなかったふしがある。彼は明確な形で幽霊と妖怪について論じてはいなかったが、季節をさだめておとずれてくる来訪神である「まればと」を論じた有名な論文のなかで、まればとは「祖霊であり、妖怪であり」（『国文学の発生（第三稿）』）とのべて、先祖の霊と妖怪をいっしょにかんがえていた。先祖の霊というのは、のちにみるように、人間の亡霊であるから、幽霊に転化する存在である。ここから、折口はおそらく幽霊と妖怪を区別していなかったろうという推定が成立する。

この折口の祖霊・妖怪同一説は師の柳田のきびしい批判をよんだ。柳田は、「私は折口氏などちがって、益に来る精霊も正月の年神も、共に家々の祖神だろうと思っっているのである」（『山宮考』）とのべて、終生、折口のまればと論をみとめようとはしなかった。

幽霊と妖怪をいっしょにかんがえて、区別しなかった学者はほかにも多い。たとえば、東洋大学の創始者で、妖怪博士とよばれるほど、妖怪研究にうちこんだ明治の啓蒙哲学者の井上円了も、幽霊を妖怪のなかにふくめて、両者を区別していないし、最近では、文化人類学者として、オカルト研究に大きな業績をあげている小松和彦氏も、幽霊を妖怪の特殊なタイプ、死霊の一つのタイプとかんがえ、両者を区別していない（『妖怪学新考』小学館ライブラリー）。また、二〇〇〇年の二月になくなった民俗学者の宮田登氏も幽霊と妖怪をわけていない（『妖怪の民俗学』岩波書店）。

妖怪が多様な形象をもち変化に富んでいるのにたいし、幽霊は、一見、類型的な印象をあたえる。この事実が、両者を区別して、幽霊に妖怪と同等の位置をあたえることを、研究者にためらわせる。しかし、幽霊をささえる民俗現象は多様であり、母胎の物語群は複雑である。それらにまでわけると、幽霊もまた多彩な相貌を我々のまえにみせてくる。

二 幽霊と妖怪を区別する必要性

私は幽霊と妖怪は区別しなければならぬし、区別することはけつしてむずかしくはないとかんがえている。まず幽霊と妖怪は区別しなければならぬという理由について説明する。

第一の理由は、伝統的に日本人がこの両者を区別してきており、この両者を区別することによって過去の日本

国際学専攻【外国人留学生特別選抜】

専門科目 日本文化学

（5枚のうち 3枚目）

人の文化と心情をよりよく理解できるということである。

幽霊も妖怪も中国で成立したことばである。幽霊のもっともふるい用例は五世紀の南朝末の詩人の謝惠連トクヱンの文にあらわれ、妖怪の用例はそれよりはるかにふるく、一世紀はじめの『漢書』にみえている。それらの用例を検討すると、妖怪は怪奇で異常な現象、幽霊は人の死後の靈魂といった意味で使用されていた。このような中国の意味と用法はそのままに日本にはいつてきた。日本での妖怪のもっともはやい用例は、『続日本紀』の奈良時代宝龜八年（七七七）二月の記事に「大祓。宮中にしきりに妖怪あるためなり」とあるもので、中国とまったく同様に異常現象という意味でもちいられていた。また、幽霊はそれより三世紀ほどおかれて、平安時代末の藤原宗忠の日記『中右記』寛治三年（一〇八九）十二月四日の箇所「毎年、今日念誦すべし。これ本願、幽霊成道のためなり」とあるものである。これも中国とおなじように死者の靈魂という意味で使用されていた。

このように、中国伝来のことばで、日本人が区別してきた両者を現代の我々が混同してしまう必要はない。江戸時代の化物をあつめた絵本類が多く妖怪と幽霊をいっしょにあつかっていることを理由に、江戸時代の人たちは妖怪と幽霊を区別していなかったという主張がある（小松和彦氏「よみがえる草双紙の化物たち」『江戸化物草紙』小学館、ほか）。しかし、この混交現象は、仏教の輪廻転生思想が一般に浸透した結果であって、本来、日本人が両者を区別していなかったといえるかどうかは疑問である。輪廻転生思想とは、地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天道の六道と、胎生・卵生・湿生・化生の四つの生まれ方をくりかえして、一つにとどまることがないという思想である。

第二の理由は、幽霊と妖怪の区別は人類に普遍的な神の觀念の区別に対応しており、両者を混同することは、神の觀念の区別を曖昧にしてしまうということである。神とは何であるかという定義をくだすことは不可能であり、神の本質について議論することは無意味であると

いう考えがあるほどである。神についての考えがさまざまであり、多様であるのは、神が人間の想像力の産物であり、この世に現実に存在するものではないからである。神の存在を証明しようとする多くの試みはすべて失敗した。最後に（信じる）という要素をとりこまないと、神の存在は立証できないからである。

神の存在証明は不可能であっても、人類が神の存在を信じてきた事実是否定できず、しかもその神についての考えが時代におうじて変化してきたことも疑いのない事実である。その神觀念は大きくつぎの三つに分類できる。

自然神 日月星辰や風雨雷鳴などの天体・氣象現象、木石山水や動植物など、要するに自然現象や自然物に、精靈の存在をみとめ、これを神とみなしたものである。

人格神 人間を神格化した一群の神々をさす。男神・女神、創造神・破壊神、英雄神・文化神、農業神・工業神・狩猟神・漁労神、守護神、祖先神などである。

超越神 現世を超越する唯一絶対神である。キリスト教やイスラム教、仏教の神仏などをいう。

この分類は人類の信仰や宗教の展開をかんがえるうえではきわめて重要な分類である。そして、妖怪はじつはこの自然神であり、幽霊は人格神にぞくしている。

三 幽霊と妖怪を区別する方法

幽霊も妖怪もともに神であるという点では共通する。幽霊も妖怪も神ではあるが、人間に過剰な関心をもつようになつた神である。過剰な関心をもつようになつた事情はいろいろであろう。さしあたり、つぎのようなケース

国際学専攻【外国人留学生特別選抜】

専門科目 日本文化学

(5枚のうち 4枚目)

すがかんがえられる。

- a 信仰集団の消滅。ある集団の神が、その集団がほかの集団によってほろぼされたり、追放されたりしたために、信仰の対象からはずされる。
- b 信仰集団の変質。ある神を信仰する集団が、ほかの神を信仰するようになり、元来の神の信仰性がうしなわれる。
- c 神の変質。信仰集団の扱いに神が不満や怒りをもつ。
- d はじめから過剰な関心をもった神として出現する。

幽霊と妖怪は以上のような共通性をもっているが、異質性ももっている。もっとも大きく異なる点は、さきに見たように、妖怪が自然神であるのに対し、幽霊は人格神であるということである。

人間はながいあいだ自然の力には勝てないと信じ、そのまえにひれふしてきた。この段階では、自然が神々として信仰の対象になっていた。自然神である。妖怪はこの段階で誕生した。しかし、やがて、人間が徐々に自分たちの自然を制圧する力「文化」に自信をもちはじめ、文化の創造に貢献した、えらばれた人たちを死後に神とあがめる時代がきた。人格神の段階である。幽霊はこの段階になって誕生した。

以上のように幽霊と妖怪の本質をとらえれば、両者の区別はそれほどむずかしくはない。両者を区別する重要な目安は二つある。

幽霊と妖怪を区別するたいせつな目安の一つは、死と生の違いである。幽霊であるためには死が絶対に必要な条件であるが、妖怪はおおむね生者であり、かならずしも死者である必要はない。生と死を連続しているとかん

がえる、ある種の宗教的な見方をべつとすれば、通常の感覚では、生きていることと死んでいることとのあいだには超えることのできない距離がある。この距離に注目すれば幽霊と妖怪は区別されなければならない。

幽霊と妖怪を区別するもう一つの大事な目安は、人間とそれ以外のものの違いである。幽霊は人間の形をそなえている。他方、妖怪は人間以外の形で出現する。

人間も、じつは、動物や自然物と区別できないような肉体をそなえている。生老病死の四つをまぬがれることはできないし、死んで無機質にもどることは動植物とかわることはない。しかし、だからといって、人間は動植物とおなじであって、そのあいだに違いがないといってしまうのは、人間の本質を大きくみあやまることになる。人間は自然とたたかって文化をつくりあげてきた精神や知性の働きをそなえている。この人間はほかの動植物や日月星辰、風雨雷鳴とは異なるという認識の生みだした存在が幽霊なのである。

人間を神とあがめる信仰は、人類の信仰の最終段階であらわれる。日本にかぎったばあい、弥生時代から古墳時代にかけてのころである。氏族社会が到来し、えらばれた特殊な男女が、文化の形成者として、まわりの自然環境から区別されて、人格をそなえた神、祖先神として信仰される時代がきたときに人格神が生まれた。幽霊はこの人格神が人間に過剰な関心、あるいは悪意をもつようになって誕生した。幽霊が人間の形をそなえてこの世に出現するのはそのためである。

2015年度 金沢大学大学院人間社会環境研究科（博士前期課程） 入学試験問題 （第2期募集）

国際学専攻「外国人留学生特別選抜」

専門科目 日本文化学

（5枚のうち 5枚目）

〔2〕日本における文化の受容について具体例をあげつつ論じなさい。

専門科目 日本語教育・日本語学 （2枚のうち 1枚目）

I. 日本語教育学

1. 次のA, Bの2つの設問から1つを選択して答えてください。

A. 外国語としての日本語教育（JFL: Japanese as a Foreign Language）と第2言語としての日本語教育（JSL: Japanese as a Second Language）の異なりについて具体例を挙げながら論じてください。

B. 日本語教育における読解の授業について、「トップダウン処理」と「ボトムアップ処理」という観点を含めながら、多角的に論じてください。

2. 次の6つの事項から4つを選択して、簡潔に説明してください。

- (1) 形成的評価
- (2) 地域の日本語教室の役割
- (3) 公文書書き換えと「やさしい日本語」
- (4) 学習ビリーフ
- (5) 明示的フィードバックと暗示的フィードバック
- (6) 日本語教育文法

専門科目 日本語教育学・日本語学 （ 2枚のうち 2枚目）

Ⅱ. 日本語学

1. 次のA, Bの2つの設問から1つを選択して答えてください。

- A. 英語などの強弱アクセントに対して、日本語や中国語は高低アクセントである。しかし、同じ高低アクセントでも、日本語や朝鮮語と、中国をはじめとする東アジア諸言語のアクセントでは性質が異なる。声調アクセントとも呼ばれる中国語のアクセントと日本語・朝鮮語のアクセントの違いについて説明し、合わせて、日本語・朝鮮語ではアクセントの単純化が最終的に無アクセント（無型アクセント）を生じさせたのに対して、中国語などの無アクセント化（アクセントルールがなくなること）は考えられないことの理由について考えを述べなさい。
- B. 日本語の現代敬語の特徴について、「尊敬語」「謙譲語（謙譲語A・B）」「丁寧語」「美化語」, 「上下関係」「親疎関係」などの語句を用いながら概略を説明するとともに、それらとBrown & Levinsonのポライトネス理論の違いについて説明しなさい。

2. 次の6つの事項から4つを選択して、簡潔に説明してください。

- (1) 母音の無声化
- (2) 新方言とネオ方言
- (3) 単純語と合成語
- (4) グロットグラム調査
- (5) サピア・ウォーフの仮説
- (6) モダリティ

2015 Second Period Application

Master's Level Section, International Relations and Regional Studies Course,
Division of International Studies, English Program.

Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Kanazawa University

2015年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)入学試験問題(第2期募集)国際学専攻

(1/2)

N.B. Examinees should choose two out of four questions.

①

Task-Based Language Teaching (TBLT) is an educational framework for second or foreign language teaching, which involves meaningful communication, a relationship to the real world, task completion, and the assessment based on task outcome. Recently, TBLT has been widely applied in not only oral communication but L2 (second language) writing and e-learning. Design your own project which integrates authentic activities into L2 writing assignments using TBLT and discuss the impact of TBLT on the development of academic writing skills.

②

“The more recent arrivals to the field of second language acquisition (SLA) — *sociocultural perspectives* on language and learning — view language use in real-world situations as fundamental, not ancillary, to learning. These researchers focus not on language as input, but as resource for participation in the kinds of activities our everyday lives comprise. Participation in these activities is both the product and the process of learning.”

Describe one of the most prominent sociocultural theories, Language Socialization, and use this theory to discuss linguistic minority students' participation in a university in relation to identity transformation, motivations, power relations, social positionings, social networks, and sociocultural contexts where learning occurs.

The above extract is from Zuengler, J., & Miller, E. R. (2006). Cognitive and sociocultural perspectives: Two parallel SLA worlds? *TESOL Quarterly*, 40(1), 35-58.

2015 Second Period Application

Master's Level Section, International Relations and Regional Studies Course,

Division of International Studies, English Program.

Graduate School of Human and Socio-Environmental Studies, Kanazawa University

2015年度金沢大学大学院人間社会環境研究科(博士前期課程)入学試験問題(第2期募集)国際学専攻

(2/2)

3

Read the following extract and answer one of the questions below in English

There is also a lively debate over “Who won the Cold War? Most Americans see the United States as the clear victor. The Soviet collapse led to the triumph of American ideals of liberal democracy and market capitalism and left the USA as the unchallenged sole superpower. But many Russians believe that *both* sides won the Cold War, since it ended by mutual agreement, and because both sides benefited from the removal of the threat of nuclear annihilation. After all, it was primarily Moscow’s initiatives that brought the confrontation to an end. Mikhail Gorbachev’s “New Thinking” in foreign policy led to the unilateral reduction of Soviet troops in eastern Europe and their complete withdrawal from Afghanistan. In this sense, the Cold War had effectively ended in 1989 —at the December Malta summit of Gorbachev and President G.H.W. Bush, shortly after the fall of the Berlin Wall on 9 November. That was two years before the collapse of the Soviet Union. So the break-up of the USSR and the end of the Cold War can be seen as two different things.

From Michael Cox et al, *US Foreign Policy*, New York, Oxford University Press, 2008, p.259.

Question:

- 1.) Should the end of the Cold War and the collapse of the Soviet Union be regarded as two distinct events? Why/Why not? Discuss the merits and demerits of this particular view of the Cold War.
- 2.) In your view, which of the two views presented above about who won the Cold War is correct? Briefly explain the author’s views and then provide your own assessment.

4

In your opinion, which one of the following international issues poses the greatest threat to global security today – China’s rise, climate change, global wealth disparities, radical Islamic terrorism, resource competition, Russian foreign policy, US foreign policy, or weapons of mass destruction (WMD)? - Use specific facts and examples to defend your answer and its supporting argument. Write a coherent, persuasive, and well-structured essay. Avoid generalizations and vague statements.